

「自主性」と「主体性」の違い

SSH 推進部長（国際理学科長） 熊谷 洋介

9月に入り、2年生の探究活動も本格化してきました。多くのグループが実験・観察、データの分析に取り組んでいます。探究活動は実験等に入るまでがとても重要で、この世界でまだ誰も明らかにしていないことに焦点を当て、自分なりの仮説を持ち、どのようにそれを解き明かすのか、ということを念入りに計画します。この部分が探究活動の良し悪しを左右するとさえ言われています。

「まだ誰も明らかにしていないことを見つける」と聞くと、とても大きなことのように思えるかもしれません。しかし、研究の世界では案外そうでもありません。誰も気に留めなかった小さな疑問。誰も確かめなかった小さな事実。そのような発見が、少しずつ知識の地図を書き換えていきます。

西高生を見ていると、最初から大きな成果を求める人が少なくありません。しかし科学の歴史を振り返れば、先人たちもまた小さな一歩を積み重ねることで「知」を前進させてきました。研究とは、壮大なジャンプよりも、一歩ずつ前に進む営みに近いのかもしれません。1年生が取り組んでいる基礎講座も同じです。論文の読み方を学ぶこと。実験の方法を知ること。データを適切に解釈すること。一見すると遠回りに見えるかもしれませんが、それらは来年度に取り組む探究活動を支える確かな土台になると考えています。

さて、実験を行い、結果を得たあと、みなさんはどうするでしょうか。そこで終わってしまうとしたら、少しもったいない話です。せっかく見つけた発見も、自分の中だけに留めていては社会の知識として残りません。研究成果は発信されて初めて、多くの人に共有され、新たな研究へとつながっていきます。また、発表することには別の意味もあります。他者から質問や意見を受けることで、自分では気づかなかった視点に出会えるからです。西高生のみなさんであれば、成長は人との出会いの中から生まれるものだと感じている人も多いはずです。そのような意味でも、外部発表会への参加には大きな価値があります。実際、参加した生徒たちは多くの刺激を受け、満足そうな表情で帰ってきます。ところが西高生は、自ら外部発表会に飛び込もうとはあまりしません。私はそこに、本校の課題があるように感じています。

その理由を考えると、「自主性」と「主体性」の違いが見えてきます。西高生には自主性があります。言われたことを着実にやり遂げる力があります。与えられた課題に対して真剣に取り組み、高い成果をあげることができます。一方で主体性とは少し違います。主体性とは、「なぜそれをするのか」を自分で考えることです。何を学びたいのか、何を明らかにしたいのかを自ら決め、その問いに責任を持つことです。誰かから与えられた目標を達成するだけではなく、自分自身で目標を見つけ出そうとする姿勢とも言えるでしょう。

これからみなさんが生きる今は「ロールモデルのない時代」です。手本のない課題が数多くあり、過去の成功例をそのままなぞるだけでは答えにたどり着けない場面も増えていくでしょう。そのような時代だからこそ、主体性が求められています。探究活動は、その力を磨くための絶好の機会です。

外部発表会への参加もまた、その一歩です。誰かに勧められたからではなく、自分の研究をもっと深めたいから参加する。もっと多くの人に伝えたいから発表する。その小さな一歩が、みなさん自身を成長させるだけでなく、新しい「知」を生み出すきっかけになるかもしれません。研究とは、まだ見ぬ景色に向かって歩くことです。その歩幅は小さくとも構いません。ただ、自分の意思で一歩を踏み出してほしいと思います。

SSHの取り組み

1年生

探究ラボⅠ・研究ラボⅠ

基礎講座

9月～11月



9月から1年生を対象に基礎講座が始まりました。基礎講座とは、探究活動を実践するための基礎となる「型」を学ぶことを目的とした講座で、基礎実験講座、基礎統計講座、論理的思考講座の3講座から基本を学んでいきます。基礎実験講座は基本的な実験を通して、機器の扱い方やデータの収集方法と扱いについて、基礎統計講座は数学的な背景を理解した基本的な統計学について、論理的思考講座は「論理的思考」の基本を身に着けるため、根拠を持って情報を整理し正しい結論を見出す練習について学んでいきます。基礎をしっかりと身に付けて、探究活動へ活用していきましょう。



2年生

探究ラボⅡ・研究ラボⅡ

探究活動 指導助言

9月11日(金)



2年生は引き続き探究活動を進めています。この日はたくさん外部指導員の方々にお越しいただき、指導助言をしていただきました。外部指導員の方々に探究の現状や内容を確認してもらうことで、専門的な視点から意見をもらうことが出来ました。班の中だけで話し合いを進めていくと行き詰ってしまうことがあります。外部指導員や担当教員、他班の生徒と情報共有や相談をすると、思いもよらない意見が得られることがあるので、積極的に行きましょう。夏休みから引き続き多くの班が各教室に分かれて実験を進めています。他班がどのような実験をしているのか聞いてみると新たなヒントになるかもしれません。



探究・研究ラボⅡ 今後のスケジュール

